◆悠久の歴史が語りかけるまち

高津波・小山地区

歴史の小径

❶逢妻駅
昭和63年3月13日に開業した。

❷医王寺
慶長年間楞厳寺の第11世能山祖芸の創立による。

刈谷城主水野忠重の頃、近くの海で2尺程の薬師如来の像が網にかかり、小さなお堂を建てて安置したといわれる。乳薬師と呼ばれ今も深く信仰されている。江戸時代にはたびたび雨乞祈願がされている。道路整備のため置場所のなくなったお地蔵さんが、境内に数体まつられている。また、刈谷藩士の子で教育者である田部井（ためがい）鉚太郎（竹香）の碑もある。

「めったいくやしい」の伝説も伝わる。

❸常夜燈

明治3年10月に建てられた。下組若者45名の名前と岡崎裏丁石大工花沢屋平吉の名が彫られている。このあたりまで衣ヶ浦が入り込んでいて、船が出入りしていたことをうかがわせる。元禄14年（1701）の三河国絵図には、高津波より尾州大府まで海上12町20間とあり、渡し船があったこともうかがえる。

❹金勝寺（こんしょう）
文明16年（1484）慶宗が高津波道場として開いたのがはじまりとされる。

「方便法身尊像」があり、その裏書が蓮如上人自筆といわれ市指定文化財となっている。この裏書に高津浪道場願主釋慶宗とあり、高津波という地名の名称が文書に現れる最初のものと言われる。鐘楼は寛延4年（1751）の建立。

❺市杵島神社（いちきしま）
市杵島姫神（いちきしまひめのかみ）と金刀比羅神（ことひらのかみ）が祀られている。仁孝天皇の御代（1817～1846）に改めて氏神として祀られている。また明治42年に金刀比羅社が合祀された。

❻中手山神明社
創立は天文元年（1532）に磯村与左衛門が勧請したといわれる。大日孁貴尊（おおひるめのむち、天照大神の別名）が祀られている。境内には末社として、稲荷社、秋葉社がある。

❼中手山貝塚
標高は8m前後で、中手山神明社の境内地を中心に広がっている。

貝塚は縄文時代晩期で、ハイガイを中心にした純貝層がみつかっている。遺物は元刈谷式土器のほか、石鏃・石斧などの石器類、矢筈などの骨角器や貝輪、シカ・イノシシなどの獣骨、ハイガイ・アカニシ・カキなどの貝類が出土している。

❽敬専寺（きょうせん）

真宗大谷派の寺である。乗慶が蓮如上人に帰依し、六字の名号を受け、応仁2年（1468）天台宗を浄土真宗に改宗して念仏の道場を建立したという。永見志摩守吉次の帰依を受けたので山号を永見山と定めた。

本尊は阿弥陀如来、寄贈者は永見志摩守である。

県指定文化財である綱座天神座像が所蔵されている。

❾天子神社（あまこ）

天文21年（1552）、伊勢国の住人小山太郎・加藤藤麿などが来住して正殿を創立した。以来当地の氏神として少彦名命（すくなひこのみこと）を崇め、天子大明神とした。

境内に稲荷社と山神社の末社がある。天文24年の棟札が残されている。

❿天子神社貝塚
昭和42年3月17日この天子神社貝塚は愛知県下における縄文時代後期の代表的遺跡として、愛知県史跡に指定されている。

遺物には、土器・石器・骨角器・貝製品などのほか貝類・獣骨などが出土している。貝類のなかではハイガイが90%以上を占めている。この土器の文様は縄文時代後期に全国的に流行した“すりけし縄文”が主体となっている。

⓫薬師堂
むかしひとりの修験者が薬師如来を背負い、諸方を巡り歩くうちにこの地に立ち寄り、一休みしたが、立ち上がろうとしたところ薬師如来を納めた箱が重くなってもちあがらないため、修験者はここが薬師如来に縁のある地であるとして、お堂を建てて祀ったといわれる。

⓬牛石
薬師堂を建てたといわれる修験者が薬師如来を納めた箱を置いたという石が、ときどき牛の姿になって歩き廻った。それを知らず、村人が牛の姿をみつけ打ちすえると牛の姿は消えてしまった。そのあとに石のかけらが落ちており、これが箱を置いた石の一部分であったため、この石が牛石と呼ばれる。

胴と頭といわれる石が2つある。

⓭八ツ崎貝塚（はっさき）

刈谷で最も古い縄文時代早期後半の貝塚。昭和30年・31年・56年に発掘調査が行われた。縄文中期から古墳・奈良・平安時代にわたる土器や、石器・骨角器などが出土している。

⓮山の神遺跡
縄文時代中期の遺跡。昭和29年刈谷東中学校の校庭において発見された。検出された1軒の竪穴住居跡は、中央に炉跡をもつ1辺が3m余りの隅丸方形で、土器片、打製石斧、無茎石鏃、石錘などが出土している。33㎡。

刈谷市

歴史の小径

〔高津波・小山〕

文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の斗栱（ますぐみ）のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を、過去、現在、未来にわたり、伝承していく愛護精神を象徴している。

◆悠久の歴史が語りかけるまち

築地・一ツ木・恩田地区

歴史の小径

❶総合運動公園

❷芋川遺跡

芋川遺跡の位置する一帯は碧海台地の西縁にあたり、遺跡の北側には西流して衣ヶ浦に注ぐ逢妻川の沖積地を臨むことができる。

この遺跡は、昭和44年・58年・61年の3度にわたり発掘調査が実施されている。縄文時代中期・後期・晩期から、古墳時代前期・後期、奈良時代後期にわたり、竪穴住居跡26軒が発見され、多量の縄文土器、古墳時代の須恵器、土師器などが出土している。

❸松雲院（しょううん）

正平20年（1365）頃、恩田弥平治郎清信というものが足利義詮の攻撃によって戦死し、家臣高木玄信が私宅に薬師如来を安置したのが始まりとされる。恩田の地名もこれに由来すると思われる。その後貞享4年（1687）幡豆郡貝吹村長円寺の月舟和尚は板倉重宗の法名「松雲院殿秀峰源俊大居士」により寺号を松雲院と改め、長円寺の末寺とした。

月舟書群、天明（てんみょう）釜は市指定文化財である。また当寺ゆかりの伝説「恩田の初連」もよく知られている。

❹恩田の初連（はつれん）

刈谷藩主が三浦氏の頃（1712～1747）恩田の松雲院に初連という白狐が住みついていた。初連は人間の及ばぬほど子を可愛がった。当時、松雲院の文福茶釜を気に入った藩主が度々寺へ遊びにきていた。家来たちはする事もなく退屈しのぎに初連親子をいじめたりした。その仕返しに若殿の婚礼を知った初連はにせの花嫁行列を作り、一足先に城へ入り大騒ぎとなった。きつねにだまされた事で藩主は幕府から減封のうえ国替させられた。和尚がきつく折檻したので初連は恩田を離れ箱根の山奥に逃げ去ったが、その後明治維新後に恩田に帰ってきたと伝えられている。

❺誓願寺

当寺の創立は詳かでない。元文3年（1738）天台宗から真宗に転宗した。

当寺第6世小林信道（大道）門下から幕末の志士佐々木市兵衛を輩出、この信道は碧海と号し詩作を好んだ。また後年刈谷藩校文礼館教授をも勤めた事など境内に建つ「碧海翁碑」に詳しい。

市指定文化財の築地古墳出土の土師器がある。

❻舟塚

昔、応神天皇の4世孫彦主人王がこの地に漂泊し、松に舟をつないで上陸した場所であるといわれている。

宇多天皇の御代（887～897）熊野の住人三善清行が熊野三山の分霊を奉持し、佐久島を経て築地村に来て祀ったのが築地村熊野神社の始めであると伝えられている。その時もこの松の木に舟をつないで上陸したといわれ、「熊野社御神体上陸之地」と記された石柱が建てられている。

❼熊野神社（糟目（かすめ）神社）

応神天皇の4世の孫彦主人王がこの地に来て、伊邪那岐、伊邪那美の命の2神を祀り、糟目天神と号し、この一部を宮地となづけた。

後に59代宇多天皇の時、善相公清行が熊野から分霊を奉持して、熊野三社と称した。当初は糟目天神熊野三社権現といわれたが、明治維新の際、熊野社と改称した。

❽築地貝塚（ついじ）

築地貝塚は、築地川右岸の台地にあり、半島状の碧海台地上に形成された貝塚である。縄文時代後期の貝塚で、竪穴住居跡や縄文土器、石鏃などの石器とともに、人骨や獣骨・貝などが数多く出土された。

❾築地古墳

碧海台地西縁にあたり、標高は7～8ｍである。大正期終わり頃耕地整理が行われ、現存はしていない。

耕地整理作業に従事した人の話では、低い土盛りで、前面が狭く後方が広い造りの石室をもっていたとされるため、横穴式石室を持つ小円墳であったといわれる。

出土遺物として須恵器、土師器、鉄製品がある。

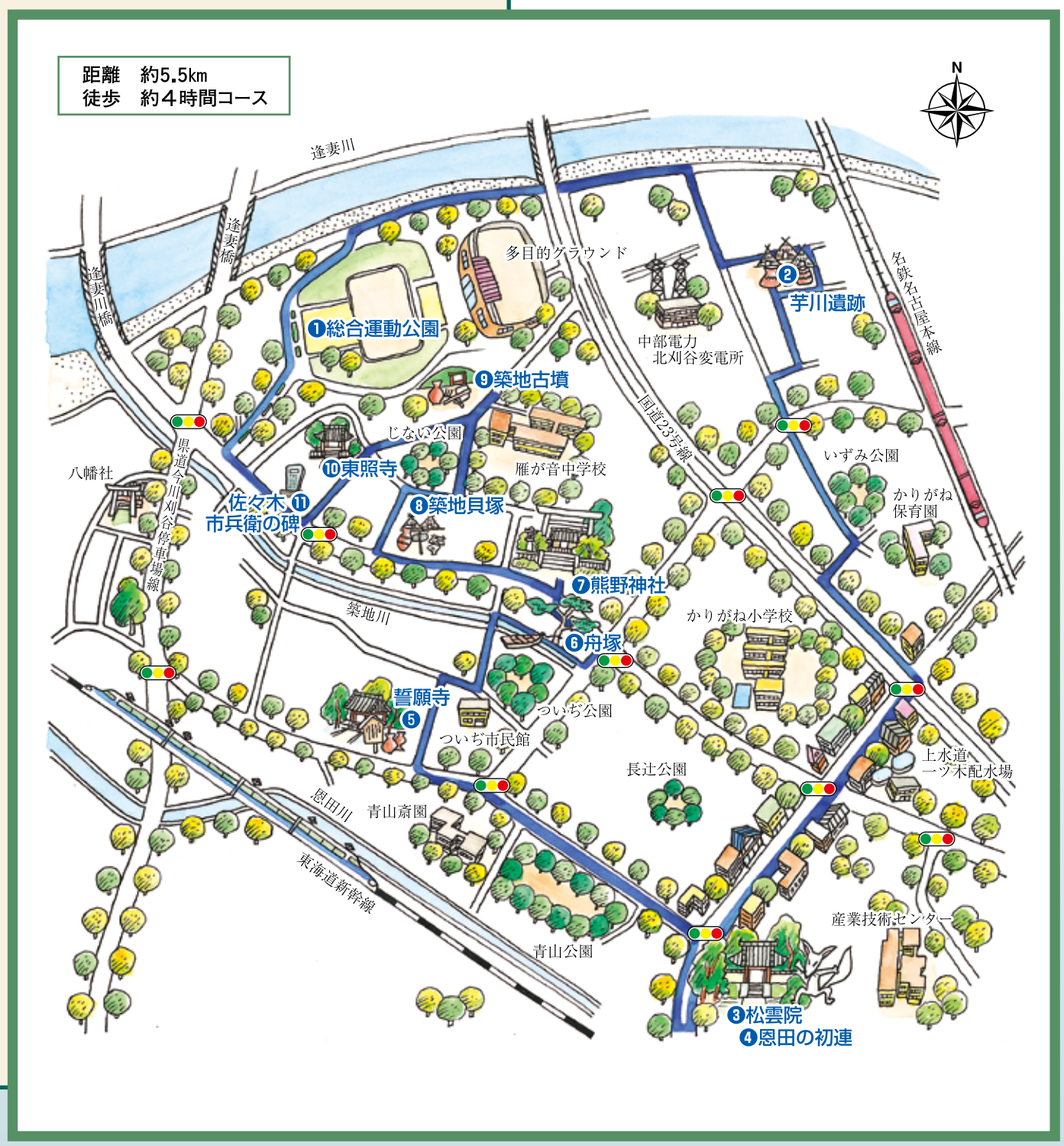
❿東照寺

応永15年（1408）10月、日叟透玄が庵室を建立し薬師堂とした。天正5年（1577）8月楞厳寺7世古堂周鑑が再興し、この時本尊薬師如来の経文によって寺号を東照寺と改称した。

⓫佐々木市兵衛の碑

佐々木市兵衛は築地村の生まれで、誓願寺住職小林大道に学び、刈谷藩士山田鈴之進について武道を修めた。尊王攘夷の志士で、慶応3年（1867）鷲尾隆聚の挙兵に応じて上京した。維新後、刈谷藩主土井利教は市兵衛の忠節を賞し、臣下にしようとしたが、既に陛下の臣であるとして辞退した。藩主はその志に感服し、母に二人扶持を与え、市兵衛には士分の待遇を与えた。

明治4年（1871）の「伊勢神宮動座騒動」に係わり、国事犯として裁かれ、明治5年40歳で獄中死した。



刈谷市

歴史の小径

〔築地・一ツ木・恩田〕

文化財は私たち祖先のすぐれた文化活動の所産であり、そのひとつひとつがその土地の歴史と風土の中で育てられたものです。

先人の手によって、長い年月のあいだ大切に守られてきた偉大な文化的遺産を正しく理解し、次の世代のためにその保存と活用に心掛けましょう。

刈谷市教育委員会

生涯学習部文化振興課

〒448-8501　刈谷市東陽町1-1

TEL　0566−62−1037

H24.8